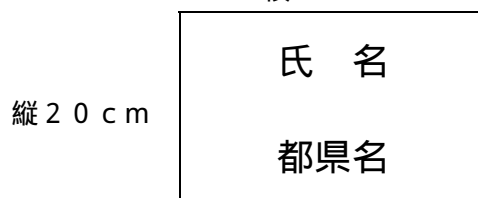


# バドミントン競技規則

1. 競技規則 2007年度(財)日本バドミントン協会競技規則による。
2. 競技種目 男子・女子ともシングルス、男子・女子ダブルス戦と混合ダブルスの5種目とする。
3. 出場資格 (1) 男子・女子シングルス、各ダブルスについての参加人数の制限はしない。  
(2) 各選手には、シングルス(男子・女子)、ダブルス(男子・女子・混合)の種目のうち、2種目までの参加を認める。  
(3) ダブルスの組み方については基本的に同一都県内の選手同士が組むこと。  
しかし、各ダブルス種目余剰の選手一名については、他都県参加選手と組むことを認める。(ダブルス同意書は、選手登録申請と同様、通常締め切りとする)
4. 組み合わせ抽選 (1) 監督・主将会議において、抽選を行う。  
(2) 監督・主将会議において、監督・主将が共に欠席したチームは、原則として出場を棄権したものとみなす。代理人が出席する場合は、事前に監督または主将の署名のある委任状を提出しなければならない。
5. 競技上の注意 (1) 各種目とも決勝トーナメント戦で行なうものとする。但し、参加状況により予選リーグを行うことがある。大会ルールとしてリーグ戦順位決定基準を設ける。  
(2) 男子シングルス、男子・女子ダブルス及び混合ダブルスは、15点3ゲームマッチとする。  
(3) 女子シングルスでは、11点3ゲームマッチとする。  
(4) シャトルは財団法人日本バドミントン協会検定合格品を使用する。  
(5) 選手は上衣の背部に下記のように明記する。(濃色で都県名・氏名を明記する。)

横25cm



- (6) 服装は原則として白を基調としたもの或いは(財)日本バドミントン協会の審査合格品を限度とする。
- (7) 試合のコールから5分以上経過してコートに入らない場合は「棄権」となります。
- (8) 進行状況により、試合開始時間・日程及びコートの変更をすることがあるので、場内放送(掲示)に充分注意願います。
- (9) ベンチに入ることの出来る者は、その試合に該当するチーム役員(体育部長・部長・監督・選手)を限度とする。
- (10) 予選リーグ順位決定基準  
予選リーグ順位は、次の採点により決定する。  
取得マッチ(試合): 1点、喪失マッチ(試合): 0点  
棄権又は没収マッチ(試合): -1点  
取得点数の多い者を優位とする。  
朱徳点数が2者以上同点の場合は、取得マッチ(試合)率に抛り、決定する。

取得マッチ（試合）率  $N = A / (A + B)$

A：全試合の取得マッチ（試合）総数

B：全試合の喪失マッチ（試合）総数

取得マッチ（試合）率の高い者を優位とする。

更に取得マッチ（試合）率が同率の場合には、取得ゲーム率に下り、決定する。

取得マッチ（試合）率  $n = a / (a + b)$

a：全試合の取得マッチ（試合）総数

b：全試合の喪失マッチ（試合）総数

取得ゲーム率の高い者を優位とする。

更に取得ゲーム率が同率の場合には、取得ポイント率に下り、決定する。

取得マッチ（試合）率  $n = / (a + b)$

a：全試合の取得マッチ（試合）総数

b：全試合の喪失マッチ（試合）総数

取得ポイント率の高い者を優位とする。

更に取得ポイント率が同率の場合には、次の方法を採用。

(1) 2 者の場合

直接対戦での勝者を優位とする。

- 6 . 審判上の注意**
- (1) すべての試合（マッチ）の各ゲームで一方のサイドが 11 点に達したとき 60 秒を超えないインターバル、各ゲーム間には、120 秒を超えないインターバルを設ける。ファイナルゲームで一方のサイドが 11 点に達したときチェンジエングスし同時に 60 秒を超えないインターバルとなる。
  - (2) 審判員の判定に対して疑問がある場合は当該プレーヤーに限り質問することが認められる。ただし、抗議あるいは異議であってはならない。
  - (3) プレーヤーはどんなことがあっても、体力や息切れを回復できるようにプレーヤーを遅らせてはならない。
  - (4) 会場の状況によっては、シャトルが障害物に当たったときの会場ルールを設ける。この場合、大会当日、大会役員・監督・主将に告示する。  
2006 年 10 月改定されました日本バドミントン協会競技規則新スコアリング 21 点ポイントで行います。

**7 . 表彰** 各種目とも 1 位から 3 位まで、賞状・メダルを授与する。